

“AIで成果を出す人”は誰？

全国 3,300 人調査を基に診断サービスを開発、AI 活用の成果差は最大 3.6 倍

【2026年8月26日（水）12:00～13:00 関連ウェビナー開催】

株式会社パーソル総合研究所（東京都江東区、代表取締役社長：岩田 亮、以下パーソル総研）が展開するリスキリング支援サービス『Reskilling Camp』は、生成AI時代に高い成果を創出する人材の特性を可視化する、『AIパフォーマンス診断』のトライアル提供を開始しました。

本診断は、当社のシンクタンク本部が全国の正規雇用者 3,300 人を対象に実施し、2026年7月22日に公表した定量調査『AI環境における人材とマネジメントに関する定量調査』の知見を基盤に設計しました。あわせて、AI環境のハイパーフォーマー育成を体系立てた学習プログラム「AIハイパーフォーマー人材の育成プログラム」を開発しました。調査レポートと本診断の公開を記念し、シンクタンク本部と『Reskilling Camp』による合同ウェビナーを **2026年8月26日（水）** に開催します。

【参考】「AI環境における人材とマネジメントに関する定量調査」

<https://rc.persol-group.co.jp/news/release-20260722-1000-1/>



リスキリング支援サービス『Reskilling Camp』

シンクタンク調査と連動した 『AIパフォーマンス診断』 トライアル提供を開始

『AI活用と組織マネジメントに関する定量調査』を土台に、AIで成果を出す人材特性と組織への広がり可視化



調査知見 × 診断 × 育成で、AI活用を組織に広げる **推進役を見出す**

図1：全国調査をベンチマークに、AIで成果を出す人材の特性を可視化する『AIパフォーマンス診断』

■ 背景：AIで成果を出すのは、AI活用を「仕組み化」し、組織をリードする推進役

生成AIが業務インフラとして急速に普及する一方で、組織全体の生産性向上にまでは結びつきにくいことが、各種調査から浮かび上がっています。

当社のシンクタンク本部が2026年7月22日に公表した定量調査『AI環境における人材とマネジメントに関する定量調査』

（全国の正規雇用者3,300名対象）では、正規雇用者の生成AI業務利用率が**54.3%**（2025年10月比+12.4pt）に達する一方、AI活用の成果を左右するのは**ツール操作スキルではなく、AI活用を“仕組み化”し組織に広げる推進役の存在とも読み取れます。**

同調査では、AI環境のハイパフォーマーに共通する特性として、

- ・ 思考・マインド：「閃く（アニマル・スピリット）」「練る（立体思考）」
- ・ メタ・スキル：「集める・決める・確かめる・壊す・蓄える」

が抽出され、これらを用いてAIとの価値共創ループを回す人材ほど成果を上げる傾向が明らかになりました。同じAIヘビーユーザーでも、メタ・スキルの高い層は低い層に対し、成果水準の向上幅などで最大3.6倍の差を生み出しています。



図2：AI環境のハイパフォーマー特性（AIと人の価値共創ループ）

出所：パーソル総合研究所「AI環境における人材とマネジメントに関する定量調査」

■『AIパフォーマンス診断』について

本診断は、全国調査で明らかになった知見を基盤に構築した診断サービスです。個人のAI活用状況を可視化し、「自身のAI活用が、全国のはたらく人と比べてどの位置にあるか」を把握できます。単にAIスキルの有無を測るのではなく、AIを使った仕事の成果・行動の特徴・組織への広げ方を、全国規模の調査データと比べて相対的に評価します（所要時間 約30分・3ステップ・自己評価形式・全60問）。

結果は4つの指標で多面的に確認できます。

- ・ ① **AIパフォーマンス指数**（成果と活用の総合スコア・全国の上位何%に位置するか）
- ・ ② **ハイパフォーマー特性適合度**（AIを使いこなす人に共通する特性への近さ）
- ・ ③ **AI活用成熟度**（活用レベルの深さ）
- ・ ④ **組織展開貢献度**（共有・育成・仕組み化で周囲に広げているか＝AIアンバサダー度）

これにより、全国平均・同じ属性の人・AIを使いこなすハイパフォーマー像と比べた個人と組織の現在地を直感的に把握でき、「次に何を伸ばすべきか」や「組織としてどこを強化すべきか」を明確にできます。

【本診断の4つの特長】

- 1. 全国調査データとの「相対評価」**：点数は絶対評価ではなく、以下の3つの基準と比較して提示します。各比較項目には調査名・調査時期・対象人数を明示します。
 - ー全国平均
 - ー同じ属性（年代／職種／役職／業種／企業規模）
 - ーAIハイパーフォーマー像
- 2. 実務スキルにとどまらない「ハイパーフォーマー特性」の測定**：AIを使いこなす人に共通する思考・マインド（閃く・練る）とメタ・スキル（集める・決める・確かめる・壊す・蓄える）を、「アニマル・スピリット（直感で踏み出す）×立体思考（構造で深める）」の4象限の考え方で評価します。
- 3. 社内に眠るハイパーフォーマー候補の発掘**：役職や経験年数だけでは見えにくい、AIで成果を出す素養（思考・マインド、メタ・スキル）を持つ人材を特性面から可視化し、次世代の推進役候補の発掘に寄与します。
- 4. 個人と組織の両面を可視化**：個人の成果・成熟度に加え、自組織のAI活用環境・ルール・風土も測定。社内・他組織や全国との比較を通じて、組織としての強み・ボトルネックを把握できます。

■ AIハイパーフォーマー人材の育成プログラム

今回、「アニマル・スピリット（閃く）」と「立体思考（練る）」の組み合わせにより、AI時代のはたらき手を4つのタイプに分類しています。両方を兼ね備え、試しながら構造化し、AIを活用して新しい成果を生み出す「探求実践型」がAI時代のハイパーフォーマーです。

「AIハイパーフォーマー人材の育成プログラム」は、この「探求実践型」人材を輩出するために、**アニマル・スピリットと立体思考の両輪を育成の柱とする**体系立てた学習プログラムです。AI時代に成果を出す推進役は、役職や経験年数だけでは見えにくい存在です。『Reskilling Camp』は、本診断で特性面から見出したハイパーフォーマー候補を「発掘して終わり」にせず、AI活用を仕組み化する推進役・イネーブラーとして育てます。本プログラムは、以下の3層で構成します。



図3：「AIハイパーフォーマー人材の育成プログラム」の全体像

（AX変革チャレンジプログラム／テーマ別AIスキル向上プログラム／自律成長プラットフォーム）

・**AX変革チャレンジプログラム**：「現場課題×AI/デジタル」の実践ループ（テーマ設定→試す→振り返る→修正する→蓄える・共有する）を通じて、アニマル・スピリット（まず動く・人を巻き込む・小さく試す・失敗から立て直す）と立体思考（論点の構造化・複数視点・深掘り・意味づけ）の両輪を鍛える中核プログラム。「起点をつくる」から「成果発表会」まで、約3か月の推奨プログラムとして設計しています。

・**テーマ別AIスキル向上プログラム**：AI×Business（AI×営業／AI×PM／AI×事業開発）、AI×Work（AI×組織改革／AI×管理職／AI×オートメーション）、AI×Data（AI×データ分析／AI駆動開発・ハーネス設計）の3領域で、職種・役割に応じたAI実践スキルを強化。PMI認定資格「PMI-CPMAI™」対策など、資格試験対策とも接続します。

・**自律成長プラットフォーム**：アセスメント・スキルタグ・学習行動の可視化・ラーニングコミュニティにより、学びの定着と組織展開を支えます。

■ 無料トライアルのお申込み

『AIパフォーマンス診断』の無料体験をご希望の方は、下記よりお申込みください。

<https://www.reskillingcamp.jp/useful/acessment-ai>

■ 調査レポート・本診断 公開記念 合同ウェビナーのご案内

調査を手掛けたシンクタンク本部と『Reskilling Camp』による合同ウェビナーを開催します。

本ウェビナーでは「メタ・スキルで見抜く」／「アニマル・スピリットと立体思考を育てる」の2部構成で、調査結果の解説や実践ツールの紹介、トークセッションを通じて、AI時代に求められる人材育成のあり方を考察します。

【ウェビナー概要】

タイトル：AIを使うほど人が育たない——「アンチ・スキリング」が御社でも始まっていませんか？

——利用率54%でも生産性が上がらない理由と、成果3.6倍を分けるAIハイパフォーマーの見抜き方・育て方

主催：株式会社パーソル総合研究所（シンクタンク本部／Reskilling Camp）

開催日時：2026年8月26日（水）12:00～13:00

形式：オンライン配信（Zoomウェビナー）

※参加費無料・事前申込制・途中入退室可

プログラム：

【第一部】「メタ・スキルで見抜く」

- ・シンクタンク本部による調査結果解説（AIハイパフォーマーを分ける「メタ・スキル」と思考のクセ）
- ・『AIパフォーマンス診断』の紹介
- ・トークセッション・質疑応答

【第二部】「アニマル・スピリットと立体思考を育てる」

- ・AIを使い続けても人が育たない“アンチ・スキリング”の実態と育成アプローチの解説
- ・プロダクト開発責任者 原田一樹による「AIハイパフォーマー人材の育成プログラム」の紹介
- ・トークセッション・質疑応答

登壇者：

- ・パーソル総合研究所 シンクタンク本部 主席研究員 小林 祐児
- ・「Reskilling Camp」プロダクト開発責任者 原田 一樹

お申し込み：下記特設ページよりお申し込みください

<https://www.reskillingcamp.jp/media/event260826>

■注記

※「合同ウェビナー」の名称・内容は予定であり、変更となる場合があります。

※本リリースに記載した調査知見の出典は、株式会社パーソル総合研究所『生成AIとはたらき方に関する実態調査』（2026年2月3日公表）および『AI環境における人材とマネジメントに関する定量調査』（2026年7月22日公表）です。比較に用いる全国値は、主に『生成AIとはたらき方に関する実態調査』の実数値を土台としています。

※「PMI」「CPMAI」は各権利者の商標または登録商標です。

■株式会社パーソル総合研究所について < <https://rc.persol-group.co.jp/> >

パーソル総合研究所は、パーソルグループのシンクタンク・コンサルティングファームとして、調査・研究、組織人事コンサルティング、人材開発・教育支援などを行っています。経営・人事の課題解決に資するよう、データに基づいた実証的な提言・ソリューションを提供し、人と組織の成長をサポートしています。

■リスキリング支援サービス『Reskilling Camp』について < <https://www.reskillingcamp.jp/> >

『Reskilling Camp』は、パーソルグループのノウハウを活かし、各社のニーズに合わせた柔軟なカリキュラム設計とコーチによる学習伴走を通じて、企業のデジタル人材育成・組織変革を支援するリスキリング支援サービスです。